



# 楽々亭通信

第7号  
令和3年3月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

## 楽々亭は第8回目を

### 開催いたしました

『「遺品」について思うこと』

本願寺派布教使

安堂芳雅

先日、お預かりしていただいたお仏壇が「嫁入り」しました。

このお仏壇は同級生の実家にあつたものです。

お母様の四十九日法要を勤めた数日後、その友人から、「姉と妹と相談して、家は手放すことになった。」という電話がありました。

今、三人がかりで片づけてはいるけれど、母は何でもとって置く人だったから、片づけても片づけても終わりがない。



また、一つ一つの品に姉妹寄つて「ああやった」「こーうやった」と思い出せる事ができない。

そして結局、「これはお姉ちゃん」「これは私」「これはあんた」とそれぞれに、持ち帰ることになったというのです。

ほのぼのとした、あたたかい話だと聞いていたのですが、娘が三人いても、誰も引き取れないものがあるそうです。

それは、ご両親が大事にされていたお仏壇です。

なるほど、だから私に電話がかかってきたのでしょう。

姉の嫁ぎ先は、浄土真

宗のご宗旨だが、お仏壇はすずであるし、「うちは浄土宗やからあかん」と同級生は言います。

そして、妹は、お仏壇を買おうと言つてはいるが、あのお仏壇は大きすぎて置くスペースはない。

両親が大事にしていたお仏壇だから、壊したくない、捨てたくはないけれど、もう仕方がない。

ああ、困つた、あんちゃん、どうしたらいい??と言われた私は、

「じゃあ、お寺で預かるうか」と言つてしまいました。

それにしても、三人の娘が実家に戻つて亡くなつた親の荷物整理をする大変さを聞かされ、同じく三人の娘をもつ私は、「遺品」になる前に物を減らしておくことが娘たちへの優しさだと教えてもらいました。

さて、「遺品」には二種類あります。

一つは「遺つたもの」で、生前故人が持つていた、今は持ち主のなくなったモノです。

そしてもう一つは、故人が「遺したもの」です。

では、このお仏壇は「遺つたもの」なのか「遺されたもの」なのか?

その答えを教えてください。先のご主人です。

ご夫婦で美容室を営んでおられる初老のお方で、当日は体格のよい二人の息子さんとご一緒に来られました。

荷台にお仏壇を乗せた軽トラクックに乗りこまれる時に、

「この子達に手を合わす姿を遺してやりたかつたんです、ありがとうございます。嬉しそうにおつしやいました。

この時、「遺つて処分にするもの」だったお仏壇は、これだけは子や孫に遺したいという願いを伴つた「遺されたもの」になりました。

ご主人の何度ものお礼の後、息子さんが「大事にします。」と爽やかにおつしやつたのが忘れられません。

同級生のお母さんの思い、美容室のご主人の願い、そして息子さんたちの決意、すべてが仏さまのあたたかな慈悲のはたらきの中になりました。

●「仏さまのお姿には三十二の特徴があります」

四つめの特徴は「踵」で、足跟広平相(そくこんこうへいそう)です。字の如く仏さまは広くて平なしっかりと安定した踵をお持ちです。

場の空気を読み、人を上手に頼り、要領よく人生を送る人の事を「世渡り上手」といいますが、それで本当にこの世を渡ったといえるのでしょうか？

その時々で「してやったり」とほくそ笑んでいても、たいがいは世渡りではなく、世流れでしかありません。

流れ流れて、私達はいったいどこまで流されていくのでしょうか。

「地に足が着く」と言います。流され続けてしまう私を留める礎のように、仏さまのしつかりとした盤石な踵は、間違いないおすくいをあらわしています。



### 楽々亭第8回に参加して

毎年二月は夫が逝った祥月命日を迎えます。17回目にもなる今も、命日の前後は色々なこ

とがよぎって心が乱れます。

そんな折、初めて楽々亭に参加させていただきました。安堂先生のやさしい語り口調、そしてとてもわかり易く浄土のお話を聞かせていただき、心穏やかな気持ちになりました。参加させていただいても良かったです。有難うございました。

以前、歌声喫茶の折に安堂先生より、親鸞聖人の御歌をご紹介いただきました。

「明日ありと思う心の仇桜夜半に嵐の吹かぬものは」  
強く心に響きました。

コロナ禍の今、以前と同じ朝が迎えられることの喜びをかみしめ、日々を楽しみながら過ごしていききたいと思っています。

田中千代子

降りしきる雪払いのけ集まり

ぬ 楽々亭の面々若し

朝からの風雪で開催も危ぶまれたのに、肉体的、物理的、精神的にそれぞれの事情を抱えつ

つも集まった我ら高齢者たち。

いやあ、考えたら実に若々しいですね。

光木和子

いつも楽々亭に参加させて頂いたたびに、ああ、そうか、と大切なことに気がつきます。今回も、息が止まった時が死、全てが終わりだと思っていた私ですが、そうではなく浄土に向かって歩ませてもらっていることだと教わりました。そう思うと、「死」に直面しても一筋の光を感じます。

そして、子供が親を育てるということも、本当にそうだなと思いました。子供が産まれなければ親になれないのだから、親にさせてくれた娘に改めて感謝しました。次回も楽しみにしています。

奥村文代



### 楽々亭第9回 3月の予定

3月13日(土)

西京区役所洛西支所会議室  
午後1時30分～3時30分

時間が変わりました。

2月に開催した場所です。

裏口から入って下さい。



### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。